

成田国際空港開港による教育環境への影響

高 澤 美 子

本稿は、環境情報研究所員が日本生命財団の研究助成金を得て行った「成田国際空港の功罪：空港の開港にともなう環境の変化と人間生活との関わりに関する研究」と題した共同研究の、筆者担当部分をなすものである。

新東京国際空港の用地が三里塚に決定したのは、1966年であった。1965年と1993年の成田市の人口を比べると42,407人から90,042人へと2倍以上に膨脹している。この人口急増にともない、小学校は11校から21校に、中学校は6校から9校へ増加した。

1984年成田市の行った住民意識調査^(注1)によると、成田空港ができたことにより「まさに外国人が目立つようになった」(59.8%)と感じ、「成田の名が広く知られるようになった」(51.3%)と半数以上の人答えている。そして成田空港の活用には、「国際性豊かな住民づくりの教育」(36.6%)というのが最多で、次に「国際都市として、人的物的国際交流を積極的に行う」(30.7%)というのが続いている。市の国際化が必要であると市民の多くが考えていることが窺われる。では国際化のための教育はどの様になされてきているのか。①学校教育、②社会教育、③市民の国際交流の3分野から探って見ることにする。

1. 学校教育

成田市教育委員会は、学校教育の重点目標としてあげている8項目の中の2番目に、「国際文化都市として外国人講師の各小学校への派遣、小中学生の国際交流事業の実施、海外帰国子女教育の充実を図るなどして、国際理解教育の推進を図る」と掲げている。実際、外国人講師による英語教育を各中学校で実施する他、小学校にも外国人講師を派遣し、国際化理解教育を進めている。

成田市には、国際空港が出来る以前の1954年にALT (Assistant Language Teacher) 外国人2名が組になり、1日小学校を訪問し、それぞれの小学校の企画の下で教育活動をする制度がスタートしている。当初は中学校対象であったものが、1、2年後に小学校に移行されたそうである。これとは別に、1968年以降、市内の全小学校の全クラスに年1回、成田市在住の日本語を話せる外国人講師が派遣され、話しをしたり、小学生と一緒に歌をうたったり、踊ったりの文化紹介、交流を行っている。外国人講師は、アメリカ人、ポルトガル人、スペイン人、中国人と多彩である。小学校を卒業するまで計6回、間近に色々の国の人々に接する機会があるということは、将来外国人に対する理解度に少なからぬ影響を与えるであろうと考えられる。

1991年からは、文部省によるJETプログラムでAET (Assistant English Teacher) 2名が、主に中学校に配属されている。

小学校の国際交流事業として、国際姉妹・友好都市（米国カリフォルニア州サンブルーノとは1982年、中国咸陽市とは1988年にスタート）との生徒の相互訪問が実施されている。

海外帰国子女学級は、1982年文部省の海外帰国子女教育研究協力校に市立中台小学校、市立吾妻中学校の2校が指定されて以来存続している。これらの学級には学区外からも申請して入学することが可能である。当初は空港関係者の帰国子女が多く、それらの子弟は、海外の日本語学校などで、すでに日本語教育を受けており、言葉の問題は比較的少なかったようである。が近年では、海外帰国子女教育とは別に、〔別表1〕^(注2)が示すように外国人登録者数の急増（外国人労働者の子弟、帰国した中国残留孤児の子供達）に伴い、言葉の問題が生じており、先の2校だけでは対応ができなくなっている。そこで市は、外国人子女教育の充実を計り、教育補助員という名の下に日本語を話せる外国人を小・中学校に派遣し、日本語が全くわからない子女に日本語教育を行っている（1995年8月時点で、スペイン語を話す外国人講師が中学校へ週1回、小学校へ週2回、英語を話す別の外国人講師が週2回小学校で日本語を教えている。）

千葉県教育委員会は、高まる情報化・国際化に対応し、教育内容の充実——小学校英語教室、高校生の海外派遣、語学指導を行う外国人の誘致——を図り、特に高等学校については、地域の特性を踏まえての新しいタイプの高校づくりを進めている。こうして1950年開校の成田西高

等学校は、1987年の英語科設置を経て、1993年に成田国際高等学校と改められる。同校には、普通科、英語科（英語科の1・2年生は2泊3日の夏期合同合宿を行う。ALTの教師と日本人英語教師とのチームティーチングで指導が行われ、生徒は期間中英語しか話せない。1年時には、スピーチコンテストが行われ、教師が指導する。）、国際教養科が設置され、英米仏の語学指導助手が3人、海外帰国子女、外国籍の生徒も在籍する。「国際関係」「比較文化」「外国事情」「スピーチ」「イングリッシュコミュニケーション」等の科目も設けられている。第2外国語は「フランス語」と「外国語」があり、2年次3年次計2年間同じ言語を学習出来る。「日本語」は外国人、留学生や日本語の不自由な海外帰国子女等のための科目である。1994年4月現在、このような本格的な公立の国際高校は県外では、東京都立国際高校のみということである。

また全国唯一の「航空車輛整備科」が1994年春に成田市隣接の下総町の下総農業高等学校に新設されたことも特筆されるべきであろう。成田空港の膝下ならではの科なのである。

成田市内の「高校生の意識調査に関するアンケート」^(注3)の調査結果から高校生の英語に関する意識や成田空港の存在と高校生の英語に対する関心との関係等を調べてみる。

この調査（第1表～第15表参照）は1994年10月に市内の公立A高等学校の1年生に実施したものである。回答者数は239名、内訳は女子164名、男子74名、不明1名となっている。A高等学校を選んだ理由として1から5までの理由をそれぞれ一番に選んだ学生の数と％は次の様になっている

成田国際空港開港による教育環境への影響

- ① 自分の学力に合っていると思ったから
.....57名 23.8% (第1表)
- ② 通学に便利だから
.....50人 20.9% (第2表)
- ③ 英語科や国際教養科があるから
.....27名 11.3% (第3表)
- ④ 帰国子女、外国人留学生がいるから
.....51名 21.3% (第4表)
- ⑤ 卒業後の進学・就職状況がよいから
.....59名 24.7% (第5表)
- ①の「自分の学力に合っているから」が1番の理由に挙げられている時、②の「通学に便利だから」が68名、28.5%で、①、②を合すると62.3%、②を1番の理由に挙げた時の結果は①②を合せて100名41.8%と出ており、③の「英語科や国際教養科があるから」を一番の理由に

第1表 Q3S1：A高等学校を選んだ理由

Q3S1	1 自分の学力に合っている と思ったから	2 通学に便利 だから	3 英語科や国際教養科 があるから	4 帰国子女・外国人留 学生がいるから	5 卒業後の進学・就職状 況がよいから	6 そ の 他	7 不 明	8 計
1	57 23.8	68 28.5	34 14.2	26 10.9	15 6.3	1 0.4	38 15.9	239 100.0

第2表 Q3S2：A高等学校を選んだ理由

Q3S2	1 自分の学力に合っている と思ったから	2 通学に便利 だから	3 英語科や国際教養科 があるから	4 帰国子女・外国人留 学生がいるから	5 卒業後の進学・就職状 況がよいから	6 そ の 他	7 不 明	8 計
1	50 20.9	50 20.9	33 13.8	26 10.9	33 13.8	3 1.3	44 18.4	239 100.0

第3表 Q3S3：A高等学校を選んだ理由

Q3S3	1 自分の学力に合っている と思ったから	2 通学に便利 だから	3 英語科や国際教養科 があるから	4 帰国子女・外国人留 学生がいるから	5 卒業後の進学・就職状 況がよいから	6 そ の 他	7 不 明	8 計
1	108 45.2	35 14.6	27 11.3	18 7.5	19 7.9	3 1.3	29 12.1	239 100.0

第4表 Q3S4：A高等学校を選んだ理由

Q3S4	1 自分の学力に合っている と思ったから	2 通学に便利 だから	3 英語科や国際教養科 があるから	4 帰国子女・外国人留 学生がいるから	5 卒業後の進学・就職状 況がよいから	6 そ の 他	7 不 明	8 計
1	19 7.9	29 12.1	47 19.7	51 21.3	34 14.2	4 1.7	55 23.0	239 100.0

第5表 Q3S5：A高等学校を選んだ理由

Q3S5	1 自分の学力に合っている と思ったから	2 通学に便利 だから	3 英語科や国際教養科 があるから	4 帰国子女・外国人留 学生がいるから	5 卒業後の進学・就職状 況がよいから	6 そ の 他	7 不 明	8 計
1	8 3.3	15 6.3	40 16.7	48 20.1	59 24.7	7 2.9	62 25.9	239 100.0

凡例 度数 横%

総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

挙げた時には、①②の合計は135名59.8%となり、学力と通学利便さは高校選択の大きな目安になっているといえよう。

高校受験時に英語を152名63.6% (第6表)

が‘好き’又‘大好き’であったと答えているのに対して、高校の英語の授業については46名24.3% (第7表) が‘好き’、‘大好き’と合せてかなり減っている。が一方、英語そのもの

第6表 Q4：高校受験時に英語が好きでしたか
Q1：性別

Q1 \ Q4	1 大好き	2 好 き	3 普 通	4 嫌 い	5 大嫌い	6 不 明	7 計
1 男	8 10.8 17.8 3.3	25 33.8 23.4 10.5	29 39.2 44.6 12.1	8 10.8 57.1 3.3	4 5.4 66.7 1.7	0 0.0 0.0 0.0	74 100.0 31.0 31.0
2 女	37 22.6 82.2 15.5	82 50.0 76.6 34.3	36 21.3 53.8 14.6	6 3.7 42.9 2.5	2 1.2 33.3 0.8	2 1.2 100.0 0.8	164 100.0 68.6 68.6
3 不 明	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 1.5 0.4	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 0.4 0.4
4 計	45 18.8 100.0 18.8	107 44.8 100.0 44.8	65 27.2 100.0 27.2	14 5.9 100.0 5.9	6 2.5 100.0 2.5	0.2 0.8 100.0 0.8	239 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

第7表 Q5S1：高校の英語の授業について、授業は
Q 1：性別

Q1 \ Q5S1	1 大好き	2 好 き	3 普 通	4 嫌 い	5 大嫌い	6 不 明	7 計
1 男	3 4.1 33.3 1.3	2 2.7 5.4 0.8	43 58.1 34.1 18.0	17 23.0 32.1 7.1	9 12.2 64.3 3.8	0 0.0 0.0 0.0	74 100.0 31.0 31.0
2 女	6 3.7 66.7 2.5	35 21.3 94.6 14.6	83 50.6 65.9 34.7	35 21.3 66.0 14.6	5 3.0 35.7 2.1	0 0.0 0.0 0.0	164 100.0 68.6 68.6
3 不 明	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 1.9 0.4	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 0.4 0.4
4 計	9 3.8 100.0 3.8	37 15.5 100.0 15.5	126 52.7 100.0 52.7	53 22.2 100.0 22.2	14 5.9 100.0 5.9	0 0.0 0.0 0.0	239 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

は、実に98.3%の135名(第8表)が‘大好き’、‘好き’と答えているのである。何が彼らの授業に対する興味を殺いでいるのであろうか。その理由としては、2つのことが彼らの記述から大きく浮かんでくる。まず第一に、授業が面白くないと彼らは云う。面白くない理由は、難しく理解出来ないからであり、又中学の授業の

延長であり、新鮮味に欠けるからであり、覚えることが多すぎるからであるとなっている。次いで、授業内容が役に立たない、会話が習いたい等、生徒が期待している内容と、実際の授業のそれとが異なっているようで授業に対する興味を失っているようである。

第8表 Q5S3：英語そのものについて、英語は
Q 1：性別

Q1 \ Q4	1 大好き	2 好き	3 普通	4 嫌い	5 大嫌い	6 不明	7 計
1 男	8	42	1	0	0	1	74
	40.5	56.8	1.4	0.0	0.0	1.4	100.0
	28.6	32.3	100.0	0.0	0.0	33.3	31.0
	12.6	17.69	0.4	0.0	0.0	0.4	31.0
2 女	75	87	0	0	0	2	164
	45.7	53.0	0.0	0.0	0.0	1.2	100.0
	71.4	66.9	0.0	0.0	0.0	66.7	68.6
	31.4	36.4	0.0	0.0	0.0	0.8	68.6
3 不明	0	1	0	0	0	0	1
	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
4 計	105	130	1	0	0	3	239
	43.9	54.4	0.4	0.0	0.0	1.3	100.0
	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0
	43.9	54.4	0.4	0.0	0.0	1.3	100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

受験時の英語の好嫌度と高校の授業に対する好嫌度(第9表)は、受験時英語が‘大好き’であった生徒の20%が‘嫌い’に、‘好き’であった生徒の26.1%が‘嫌い’又は‘大嫌い’になり、‘普通’から26%が‘嫌い’‘大嫌い’になっていると生徒はいう。217名のうち54名つまり、24.8%の生徒が英語の授業は嫌いなのである。英語そのものの好嫌度と英語とのクロス集計(第10表)によれば、‘好き’、‘大好き’計236名のうち授業に関しては、27.5%の65

名が嫌いと述べている。では、生徒は高校の授業に何を期待しているのだろうか。

第11表によると、「外国人と話せるようになりたい」が、抜きんでて多く、実に153名(64%)となっており、次の「大学受験に合格するような力をつけたい」(77名、32.3%)を大きく引き離している。つまり実用英語、使える英語を学びたがっている。しかし受験も考えないわけにはいかないということであろう。そして「将来英語を生かせる仕事につきたい」が(72名

第9表 Q 4：高校受験時に英語が好きでしたか
Q5S1：高校の英語の授業について、授業は

Q4 Q5S1	1 大好き	2 好 き	3 普 通	4 嫌 い	5 大嫌い	6 不 明	7 計
1 大好き	4 44.4 8.9 1.7	3 33.3 2.8 1.3	1 11.1 1.5 0.4	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 11.1 50.0 0.4	9 100.0 3.8 3.8
2 好 き	13 35.1 28.9 5.4	21 56.8 19.6 8.8	3 8.1 4.6 1.3	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	37 100.0 15.5 15.5
3 普 通	19 15.1 42.2 7.9	55 43.7 51.4 23.0	44 34.9 67.7 18.4	6 4.8 42.9 2.5	1 0.8 16.7 0.4	1 0.8 50.0 0.4	126 100.0 52.7 52.7
4 嫌 い	9 17.0 20.0 3.8	21 39.6 19.6 8.8	14 26.4 21.5 5.9	7 13.2 50.0 2.9	2 3.8 33.3 0.8	0 0.0 0.0 0.0	53 100.0 22.2 22.2
5 大嫌い	0 0.0 0.0 0.0	7 53.8 6.5 2.9	3 23.1 4.6 1.3	1 7.7 7.1 0.4	2 15.4 33.3 0.8	0 0.0 0.0 0.0	13 100.0 5.4 5.4
6 不 明	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 16.7 0.4	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 0.4 0.4
7 計	45 18.8 100.0 18.8	107 44.8 100.0 44.8	65 27.2 100.0 27.7	14 5.9 100.0 5.9	6 2.5 100.0 2.5	2 0.8 100.0 0.8	239 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

第10表 Q5S1：高校の英語の授業について、英語は
Q5S3：英語そのものについて、英語は

Q5S1 Q5S3	1 大好き	2 好 き	3 普 通	4 嫌 い	5 大嫌い	6 不 明	7 計
1 大好き	5 4.8 55.6 2.1	21 20.0 56.8 8.8	53 50.5 42.1 22.2	24 22.9 45.3 10.0	2 1.9 15.4 0.8	0 0.0 0.0 0.0	105 100.0 43.9 43.9
2 好 き	2 .5 22.2 0.8	16 12.3 43.2 6.7	72 55.4 57.1 30.1	28 21.5 52.8 11.7	11 8.5 84.6 4.6	1 0.8 100.0 0.4	130 100.0 54.4 54.4
3 普 通	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 1.9 0.4	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	1 100.0 0.4 0.4
4 嫌 い	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0
5 大嫌い	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0
6 不 明	2 66.7 22.2 0.8	0 0.0 0.0 0.0	1 33.3 0.8 0.4	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	0 0.0 0.0 0.0	3 100.0 1.3 1.3
7 計	9 3.8 100.0 3.8	37 15.5 100.0 15.5	126 52.7 100.0 52.7	53 22.2 100.0 22.2	13 5.4 100.0 5.4	1 0.4 100.0 0.4	239 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

成田国際空港開港による教育環境への影響

第11表 Q5S2：高校の英語の授業に期待することは

Q 1：性別

Q5S2 Q 1	1 外国人と 話せるよう になりたい	2 大学受験 に合格する ような力を つけたい	3 異文化を 学びたい	4 将来英語 を生かせる 仕事につ きたい	5 その他	6 不明	7 計
1 男	41 56.2 26.8 17.4	29 39.7 37.7 12.3	6 8.2 18.8 2.5	12 16.4 16.7 5.1	2 2.7 25.0 0.8	2 2.7 28.6 0.8	73 100.0 30.9 30.9
2 女	112 69.1 73.2 47.5	48 29.6 62.3 20.3	26 16.0 81.3 11.0	59 36.4 81.9 25.0	6 3.7 75.0 2.5	5 3.1 71.4 2.1	162 100.0 68.6 68.6
3 不明	0 .0 .0 .0	0 .0 .0 .0	0 .0 .0 .0	1 100.0 1.4 .4	0 .0 .0 .0	0 .0 .0 .0	1 100.0 .4 .4
4 計	153 64.8 100.0 64.8	77 32.5 100.0 32.6	32 13.6 100.0 13.6	72 30.5 100.0 30.5	8 3.4 100.0 3.4	7 3.0 100.0 3.0	236 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

第12表 Q6S1：授業外の英語の勉強をしていますか

Q 1：性別

Q6S1 Q 1	1 はい	2 いいえ	3 不明	4 計
1 男	30 40.5 28.6 12.6	42 56.8 32.3 17.6	2 2.7 50.0 .8	74 100.0 31.0 31.0
2 女	75 45.7 71.4 31.4	87 53.0 66.9 36.4	2 1.2 50.0 .8	164 100.0 68.6 68.6
3 不明	0 .0 .0 .0	1 100.0 .8 .4	0 .0 .0 .0	1 100.0 .4 .4
4 計	105 43.9 100.0 43.9	130 54.4 100.0 54.4	4 1.7 100.0 1.7	239 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

第13表 Q6S2：授業以外の勉強をしている人に、どのようにして勉強をしていますか

Q 1：性別

Q6S2 Q 1	1 英会話 スクール	2 塾や 予備校	3 個人教授	4 ラジオ	5 テレビ	6 テープ CD
1 男	3 10.0 10.3 2.9	6 20.0 60.0 5.9	3 10.0 33.3 29.4	10 33.3 25.0 2.9	1 3.3 14.3 5.9	2 6.7 15.4 2.9
2 女	26 36.1 89.7 25.5	4 5.6 40.0 3.9	6 8.3 66.7 5.9	30 41.7 75.0 29.4	6 8.3 85.7 5.9	11 15.3 84.6 10.8
3 不明	0 0 .0 .0	0 0 .0 .0	0 0 .0 .0	0 0 .0 .0	0 0 .0 .0	0 .0 .0 .0
4 計	29 28.4 100.0 28.4	10 9.8 100.0 9.8	9 8.8 100.0 8.8	40 39.2 100.0 39.2	7 6.9 100.0 6.9	13 12.7 100.0 12.7

Q6S2 Q 1	7 本	8 雑 誌	9 その他	10 不 明	11 計
1 男	0 .0 .0 .0	7 23.3 41.2 6.9	1 3.3 25.0 1.0	0 .0 .0 .0	30 100.0 29.4 29.4
2 女	3 4.2 100.0 2.9	10 13.9 58.8 9.8	3 4.2 75.0 2.9	1 1.4 100.0 1.0	72 100.0 70.6 70.6
3 不明	0 .0 .0 .0	.0 .0 .0 .0	.0 .0 .0 .0	.0 .0 .0 .0	.0 .0 .0 .0
4 計	3 2.9 100.0 2.9	17 16.7 100.0 16.7	4 3.9 100.0 3.9	1 1.0 100.0 1.0	102 100.0 100.0 100.0

凡例	度数	横%	縦%	総和%
----	----	----	----	-----

 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=109

30.1%)と続く。言語は文化の一部であり、言語と文化を切り離すことは出来ないのだが、高校生には英語を学ぶことが即文化を学ぶことに直結せず、「異文化を学びたい」は32名13.4%と上述の2項目よりぐっとパーセンテージは減っている。では英語が好きであるならば授業以外にどの位の数の生徒が、どの様にして英語力を培っているのだろうか。その答えが第12表である。約半数弱の生徒(105名、43.9%)が主にラジオ(40人、38.1%)、次いで英会話スクール(29名、27.6%)、テープ、CD(13名、12.4%) (第13表)を利用している。英会話スクールに行っている29名、27.6%というのはかなり高い数値である。一方英語は好きでも授業以外には勉強しない生徒が半数強いる。

第14表が示すように「これからの日本人にとって英語の必要度は」は214名、89.5%の生

徒がもっと高くなると考えている。近くの新東京国際空港の存在と、彼らの英語に対する関心に、何らかの係りがあるのだろうか。それについて調べた結果が、第15表である。77名(32.2%)が空港の存在を意識しているという結果になっている。男生徒の18.9%、女生徒の38.4%が、それぞれ何らかの影響を受けている。影響を受けている第1の理由として生徒が挙げているのは、外国人が、空港、駅、市内、電車内に多く見受けられ、それに刺激を受け、英語への関心に繋がっているというもので、これが59名いた。そのうちの何人かの生徒は、外国人に英語で話しかけられ、語学力の必要性を痛感している。また、積極的に外国人と話したいと思い、英語を話せるようになろうと決意したり、更に身近に外国人が沢山いるという恵まれた環境で、英語を勉強しない手はないと考える積極派もいる。次に挙げられる理由としては、

第14表 Q9：これからの日本人にとって英語の必要はどうなると思いますか
Q1：性別

Q9 Q1	1 もっとも っと高くなる	2 もっと高 くなる	3 現在と変 らない	4 低くなる	5 不明	6 計
1 男	21 28.4 22.8 8.8	39 52.7 32.0 16.3	0 .0 .0 .0	7 9.5 41.2 2.9	7 9.5 100.0 2.9	74 100.0 31.0 31.0
2 女	70 42.7 76.1 29.3	83 50.6 68.0 34.7	1 .6 100.0 .4	10 6.1 58.8 4.2	0 .0 .0 .0	164 100.0 68.6 68.6
3 不明	1 100.0 1.1 .4	0 .0 .0 .0	0 .0 .0 .0	0 .0 .0 .0	0 .0 .0 .0	1 100.0 .4 .4
4 計	92 38.5 100.0 38.5	122 51.0 100.0 51.0	1 .4 100.0 .4	17 7.1 100.0 7.1	7 2.9 100.0 2.9	239 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

第15表 Q10：成田空港の存在があなたの英語に対する関心に影響を与えていると思いますか
Q 1：性別

Q 1 \ Q10	1 は い	2 いいえ	3 不 明	4 計
1 男	14 18.9 18.2 5.9	60 81.1 38.0 25.1	0 .0 .0 .0	74 100.0 31.0 31.0
2 女	63 38.4 81.8 26.4	97 59.1 61.4 40.6	4 2.4 100.0 1.7	164 100.0 68.6 68.6
3 不明	0 .0 .0 .0	1 100.0 .6 .4	0 .0 .0 .0	1 100.0 .4 .4
4 計	77 32.2 100.0 32.2	158 66.1 100.0 66.1	4 1.7 100.0 1.7	239 100.0 100.0 100.0

凡例 度数 横% 縦% 総和% 総サンプル数=239 セレクト条件による該当サンプル数=239 有効サンプル数=239

将来空港で働きたいからというのが10名。3番目の理由としては、成田が国の表玄関であり、‘国際化’で‘国際交流’が行われるから、これからの社会は英語力が必要不可欠、世界の文化を学ぶことが大切等々であった。

市内に外国人の姿が多く見られ、国際化の波に洗われているという成田市の現実、一部の高校生に英語の学習への動機づけを与えていると考えられる。空港開設で一般市民も市内の表示がローマ字に変わり、又商店ではメニューなどに英語版を加えるなど実生活面でいち早く変化がみられたのであった。

2. 社会教育

高校開放講座：成田市では、公・私立高校の施設を利用し、市民が専門的な知識・技術を修得できる高校開放講座を開設している。講師

は開設校から出して貰うのである。経済・園芸・文学・書道・地理等々が開講されているが、国際化に直接関係すると思われるのは、成田国際高校の語学講座である。定員40名で土曜日に開かれている。これ迄に、英会話、フランス語、中国語、スペイン語の講座が開講された。

成田ユネスコ：1975年に始まった成田ユネスコ協会は、国際理解を進め、平和を高めていくことを目指すもので、その実施に国際化の重要な一翼を担っている。国際化ネットワーク推進のため活動、講演会、国際子供キャンプ、世界の風づくり、外国人旅行者への折り鶴の配布等々活動している。ユネスコ婦人部の事業で、成田市に乗り入れる航空会社の従業員（パイロット、スチュワーデス等）対象に日本の文化の紹介をしている。茶の湯・生け

花・折り紙・日本の民族衣裳である着物の着付等が好評を博している。

ウーマンカレッジ：国際化時代に求められる婦人リーダーの養成を目指して、ウーマンカレッジが1989年以来継続的に開設されている。このウーマンカレッジは一般公募で委員を募り、企画委員会を組織し、カレッジの企画運営をしている。カレッジの修了生は、ボランティア活動、コーディネーター等をして地域、職場、社会教育施設で積極的に活動することを期待されている。

3. 市民の国際交流

成田市民の国際交流機関として、国際交流協会（Narita International Friendship Society）と成田国際フレンドシップクラブ（Narita International Friendship Club）の二つがある。

国際交流協会は、市に対する協力機関の働きをし、会の運営は、会費と市の補助金で行われる。協会は国際空港を有する国際文化都市としての成田の発展に寄与するとともに、国際相互理解の増進と国際親善の促進を図ることを目的としている。主な活動には次の4点があげられる。

① **友好都市・姉妹都市との交流：**成田市の姉妹都市カリフォルニア州サンプルーノとは、1982年、ロータリークラブ同志の姉妹クラブ締結から交流が始まり、1985年に成田市内9校の中学生代表13名を含む成田市青少年海外友好使節団一向がサンプルーノを訪れた。以後毎年成田市はサンプルーノに中学生や高校

生を派遣し、また、サンプルーノの中学生等を成田へ招聘している。

1988年に中国陝西省咸陽市と友好都市関係を結び日中友好都市卓球大会に参加するなど、スポーツを通しての交流をはじめとして諸々の交流が行われている。

② 友好都市・姉妹都市からの私費留学生に生活費を助成している。

③ 市内在住外国人を対象とした日本語スピーチコンテストを成田ケーブルテレビと共催で開催している。

④ 日本語教室、これは年40回にも至り、初級から上級まであるかなり充実したものである。

成田国際フレンドシップクラブは草の根の国際交流機関で、アメリカ人、Jackson Stephens の提唱で1989年に発足した。このメンバーは世界17国に及び、活動は月計約25回にもなる。このクラブのモットーは“Open Minds + Open Hearts + Frequent Contact = Lasting Friendship”（“全ての人に心を開き、頻繁な交流を重ねることにより永続的な友情が築かれる”）なのである。

おわりに

成田市は新東京国際空港開設に伴う人口の増加に従って、小・中学校の教育施設も増えた。海外帰国子女や外国人登録者数の増加で、彼らのための日本語教育の必要性が生じ、成田市在住の日本語を使える外国人が、教育補助員として小・中学校で日本語を指導する制度が導入された。また国際理解教育の一環として、毎年全小学校の全クラスに日本語のわかる外国人に、

クラス担任と協力して彼らの歌、踊り、話などを披露してもらい、児童を異文化に触れさせる機会を設けている。これは異文化を知り外国人をごく自然に受け入れる素地を作るのに、大変よいことである。

A L T、A E Tの小・中・高等学校への派遣で、児童・生徒は Authentic な英語に触れると同時に、文化の違いも学んでいる。そして、国際化に対応した新しい学科・コースの設置が必要となる中で、成田国際高校が創立され、「スピーチ」「国際関係」「外国事情」という様なこれまでの高等学校のカリキュラムには全くない科目が導入された。

第二外国語には中国語とフランス語が組み込まれている。また、下総農業高等学校の「航空車輛整備科」は、成田空港を意識したもので全国に類を見ないものである。

市内に多数見受けられる外国人の存在が、高校生に英語に対する関心を高めさせ、成田空港に就職を希望する生徒が出てくるのも、ごく自然な傾向であろう。

市当局も国際化に対応した教育の推進を強く打ち出し、国際理解の推進、国際交流の促進に努力を払っている。高校開放講座もその一端を担っている。ユネスコ協会は地道に‘日本の香り’等を通し日本の文化の紹介と友好に努めている。婦人の意識を高めリーダーの資質を養うためのウーマンカレッジの存在も心強い。

国際交流は、友好都市の中国陝西省咸陽市と姉妹都市の米国・カリフォルニア州サンブルーノ市との文化、経済、スポーツ等の交流を通して相互理解を図り、国際親善の発展に努めている。その窓口になっているのが半官半民の性格を持つ Narita International Friendship Society である。一方毎年多くの Events を計画し心を開き頻繁に外国人との Communication をはかっているのが‘草の根の国際交流’を自負している Narita International Friendship Club である。地の利を得て、成田市は国際化を着実に進めていると見受けられる。

成田国際空港開港による教育環境への影響

(注1) 住民意識調査

『昭和58年度成田市委託調査 成田市住民意識調査報告書』 株式会社オオバ 昭和59年3月

(注2) 【別表1】 外国人登録者数の推移

		S55	S60	H2	H6			S55	S60	H2	H6			S55	S60	H2	H6
1	オーストラリア				20	15	ド イ ツ			10	12	29	フィリピン	7	16	71	138
2	オーストリア		1	10	2	16	イ ン ド				4	30	ロシア連邦				5
3	ベルギー		3	3	3	17	インドネシア	1		3	3	31	マレーシア	6	9	5	4
4	ポリビア				8	18	イ ラ ン				23	32	ス ペ イ ン				7
5	ブラジル		3	9	289	19	アイルランド				1	33	スエーデン				1
6	ミャンマー				1	20	イ タ リ ア				1	34	シンガポール	1	1		8
7	バングラデシュ				3	21	朝 鮮	147	168	209	37	35	タ イ	2	5	5	40
8	カナダ				24	22	韓 国		(168)	(209)	222	36	トルコ				1
9	スリランカ				6	23	レバノン		4		1	37	旧ソビエト連邦				1
10	中国	7	30	37	108	24	メキシコ	1			54	38	エジプト				1
11	コロンビア	2			4	25	オランダ				1	39	イギリス	2	2	14	22
12	フィンランド		1	1	1	26	ニュージーランド		4	5	6	40	アメリカ	5	21	58	58
13	フランス	1	4	3	3	27	パキスタン				6	41	ベトナム				6
14	フィジー				1	28	ペルー				229	42	その他	2	14	65	2
														184	286	508	1,357

(市民課 1994年7月現在)

(注3)

1994年10月実施

高校生の意識調査に関するアンケート

(該当する選択肢の記号を丸で囲んでください。必要ならば二つ以上選んでもかまいません。)

(Q1) 性別 イ. 男 ロ. 女

(Q2) 学年 イ. 1年 ロ. 2年 ハ. 3年

(Q3) A高校を選んだ理由

- () 内に順位を付けて下さい。 () Q3S1 自分の学力に合っていると思ったから
 () Q3S2 通学に便利だから
 () Q3S3 英語科や国際教養科があるから
 () Q3S4 帰国子女、外国人留学生がいるから
 () Q3S5 卒業後の進学、就職状況がよいから
 () Q3S6 その他 ()

(Q4) 高校受験時に英語が好きでしたか

イ. 大好き ロ. 好き ハ. 普通 ニ. 嫌い ホ. 大嫌い
 英語の授業と英語そのものとを分けて尋ねます

(Q5S1) まず、高校の英語の授業について。授業は

イ. 大好き ロ. 好き ハ. 普通 ニ. 嫌い ホ. 大嫌い
 その理由を書いて下さい

(Q5S2) 高校の英語の授業に期待することは

- イ. 外国人と話せるようになりたい
 ロ. 大学受験に合格するような力をつけたい
 ハ. 異文化を学びたい
 ニ. 将来英語を生かせる仕事につきたい
 ホ. その他 ()

- (Q5S3) 次に英語そのものについて。英語は
イ. 大好き ロ. 好き ハ. 普通 ニ. 嫌い ホ. 大嫌い
その理由を書いて下さい
-
- (Q6S1) 授業以外の英語を勉強していますか
イ. はい ロ. いいえ
- (Q6S2) はい と答えた人に。どのようにして勉強していますか
イ. 英会話スクール ロ. 塾や予備校 ハ. 個人教授 ニ. ラジオ ホ. テレビ
ヘ. テープ・CD・雑誌 チ. 本 リ. その他 ()
- (Q7) 高校卒業後の進路は
イ. 就職 ロ. 4年制大学 ハ. 短大 ニ. 専門学校 ホ. 留学
- (Q8S1) 高校卒業後、上級学級進学のため以外にあなたの英語の能力をどう生かしますか
イ. 英検の上級試験を受ける ロ. 英語力の一層の向上をはかる
ハ. 地域あるいは海外のボランティア活動 ニ. 特に何も無い
ホ. その他 ()
- (Q8S2) ロに丸を付けた人に。どのように英語力の一層の向上をはかりますか
イ. 英会話スクール ロ. 塾や予備校 ハ. 個人教授 ニ. ラジオ ホ. テレビ
ヘ. テープ・CD・雑誌 チ. 本 リ. その他 ()
- (Q9) これからの日本人にとって英語の必要度はどうなると思いますか
イ. もっともっと高くなる ロ. もっと高くなる ハ. 現在と変わらない
ニ. 低くなる
- (Q10) 成田空港の存在があなたの英語に対する関心に影響を与えていると思いますか
イ. はい ロ. いいえ
はいと答えた人に。どのような形で影響を与えていますか 具体的に書いて下さい
-

本稿の資料は次のところからいただきました。

『平成5年度 教育要覧』成田市教育委員会

『平成5年度 成田市の生涯教育』成田市教育委員会

『昭和58年度 成田市委託調査 成田市住民意識調査報告書』株式会社オオバ 昭和59年3月

『成田市総合5か年計画』成田市 昭和53年

『さわやかハートちば 5か年計画』(教育文化関係抜粋) 千葉県 平成3年3月

『平成3年度 教育施策』千葉県教育委員会

『平成4年度 教育施策』千葉県教育委員会

『平成5年度 教育施策』千葉県教育委員会

社会の変化及び中学校卒業予定者数の減少に対する本県公立高等学校の改編を推進するための基本的方策について(第3次答申)』千葉県高等学校改編推進協議会 平成3年2月4日

成田市 国際交流協会会報 創刊号～第8号

NARITA INTERNATIONAL FRIENDSHIP CLUB MONTHLY CALENDAR

January, 1991～November, 1993

NARITA INTERNATIONAL FRIENDSHIP CLUB MONTHLY NEWSLETTER

January, 1991～November, 1993

成田市教育委員会 学校教育課

成田市教育委員会 社会教育課

成田市役所 市長公室国際交流室

成田市役所 市民課

成田市役所 行政資料室

千葉県教育庁管理部総務企画課

ABSTRACT

The Educational Effect of Narita International Airport on the Neighboring Areas

Yoshiko Takazawa

This is the writer's division of a group research project on "The Merits and Demerits of Narita International Airport," which was carried out under the program of Nihon Seimei Zaidan Kenkyu Josei. The writer did research on "The Educational Effect of Narita International Airport on the neighboring Areas" from three points of view-school education, social education and international exchange. Various new programs have been put into place in these three fields and Narita City can be said to have been making steady progress in its internationalization with the International Airport.